



耐震化率 42.9%
福山が県内で最下位!

家町新山に一般廃棄物の埋立処分予定地だった土地があり、福山市が所有していますが、法面が崩れ、土砂の流出被害もおきています。この崩土対策として、市は国土交通省の提案を受け、福山道路(国道2号)バイパスの建設で発生した土を使って盛土をつくるといいます(2024年度に盛土工事に着手予定)。

10トンダンンプ6万台
盛土の量は約30万立方メートル、高さは最大40メートルに及びます。10トンダンンプ延べ6万台が2年かけて、道路建設地から国道2号、芦田川堤防道路の右岸線、加茂福山線を通じて土を運びます(1日あたり150台)。

子どもを命を何より大事に
幼稚園の耐震化を早く

福山市立幼稚園9園のうち5園が耐震化できていません(2022年4月時点)。耐震化が完了していないのは、県内で2市のみです。市は、1園の耐震工事を今年度中に完了し、もう1園は来年度に着手予定とされています。しかし、残りの3園は2024年までに休園の予定としており、耐震化しないまま幼稚園をなくそうとしています。すべての幼稚園の耐震化を急ぎ、安全に利用し続けられるようにする必要があります。

「3年保育」など保育機能の充実こそ
市立幼稚園は現在、坪生を含む7園が2年保育(4~5歳)、3年保育(3~5歳)のみです。日本共産党は「坪生エリアの保育施設の定員充足率は100%を超えており、需要は高い。園児が少ないのは2年保育が2園にあっていないのであり、休園の判断は拙速だ」と指摘。幼稚園をなくすのではなく、機能を充実させて保育の量と質を確保するよう求めました。

DV相談窓口の周知を

DV(配偶者などからの暴力)や離婚、セクハラなどの相談を受ける「イコールふくやま」が移転し、相談件数が前年に比べて24.7%も減りました。市は再移転を検討していますが、周知不足も原因とのこと。相談案内の掲示の工夫を求め、周知啓発を進めた「この答弁をええました。」

イコールふくやま相談室
084-973-8896

家族介護用品券の拡大を

重度の要介護者を在宅で介護する同居家族に対し、オムツなどの介護用品の購入に利用できる「家族介護用品券」が支給されます(住民税非課税世帯のみ)。日本共産党は、「別居家族も対象にしてほしい」との市民の声を受け、市に対象拡大を求めました。

申請は
介護保険課
084-928-1166

障害者福祉の充実を

移動支援の対象拡大を
一人で外出が困難な障害者(児)の移動を支援する制度について、通学や通園も対象にするよう求めました。

事業所の報酬引き上げを
障害福祉事業所への報酬単価は12年間もすえおきで厳しい経営となっており、コロナ禍・物価高で負担が増す中、早急に引き上げるよう求めました。

男性トイレにもサニタリーボックスを

病気などで尿漏れパッドやオムツを使う人が外出時に捨てる場所に困らないよう、男性用の個室トイレにもサニタリーボックス(汚物入れ)を設置する自治体が増えていきます。日本共産党は、公共施設のトイレに大きめのサニタリーボックスを設置すること、駅や商業施設など民間施設にも設置を働きかけることを市長に求めました。

安心して外出できるように

福山市は、市役所に1か所設置していると答えましたが、ふたもない容器があるだけです。だれもが安心して外出できる環境をつくるべきです。

広島市役所の男性トイレ

ご意見・ご要望をお寄せください

高木たけし たけし通信 TEL 084-972-6830 FAX 084-972-6830 mail takagi@f-jcp.com

河村ひろ子 ひろ子ワールド TEL 084-965-6049 FAX 084-962-1928 mail kawamura@f-jcp.com

みよし剛史 みよし剛史の徒然ブログ TEL 084-994-5013 FAX 084-994-5014 mail miyoshi@f-jcp.com

本当に必要な工事なの!?
道路建設の土を盛土に

盛土の崩落事故は全国で発生しており、熱海では大きな被害となりました。工事後の盛土の管理責任は福山市にあり、安全への責任は重大です。

大型道路の見直しを
日本共産党は「崩土対策は必要だが、道路建設による大量の発生土を使うために必要以上の盛土になるのではないかと指摘。『大型道路に多額の税金を使うあり方を見直すべき』と求めました。



気候危機を防ぐために
CO2排出実質ゼロを

熱 波や暴風雨の激化など、地球温暖化による気候変動が深刻です。温室効果ガスの排出を抑え、気温上昇を防ぐことは、人類の存亡にかかわる問題です。

CO2ゼロ
全国では、2050年にCO2(二酸化炭素)を実質ゼロにすることをめざすと表明した自治体が758に上ります(7月時点)。日本共産党は、福山市もCO2ゼロを表明するよう何度も求めてきました。これまでは消極的な答弁でしたが、今議会で初めて「環境基本計画を見直す中で環境審議会などの意見を聞く」と前向きな答弁がありました。

大企業のCO2排出削減が不可欠
福山市には大手製鉄所があり、CO2排出の大部分を産業部門が占めます。全国では製鉄所がある自治体でも12市がCO2ゼロを表明し、北九州市では約7割を占める産業部門からの排出を2030年までに47%減らすことを目標にしています。日本共産党は、福山市が企業と連携し、CO2削減の戦略を持つよう求め、市からは「行政が牽引役となる」との答弁がありました。

福山市のCO2排出割合
(福山の環境白書「2018年度暫定値」)
産業部門 89%
業務その他部門 3%
運輸部門 4%
家庭部門 2%
廃棄物部門 2%
全国では産業部門は34%
出典)温室効果ガスインベントリオフィス

激増する豪雨に備え
排水能力の強化を急げ

気 候変動の影響で豪雨が增え、短時間に激しい雨が降る局地的豪雨も相次いでいます。

蓮池川北側で浸水
昨年7月、時間雨量70ミリ(三吉町)の豪雨により、木之庄町から港町まで、おにも蓮池川にそって北側の地域が浸水しました。蓮池川より南側の地域では、中央ポンプ場と新浜ポンプ場で毎分1428トンの揚水量で排水し、雨水を貯める直径3メートルの増補管もあります。一方、北側の地域は大山ポンプ場が排水しますが、揚水量は毎分720トンで、管渠(水路)も長くありません。日本共産党は、北側地域の排水・貯水能力を高めるため、ポンプ増設などの対策が必要と求めました。市は「今後、対策を検討する」と答えました。豪雨が増加・激化する中、内水氾濫を防ぐため、市内全域で対策の見直しが必要と求めました。

